造林関係事業5カ年間無災害達成について

新城営林署　　竹　本　真　一

1. はじめに

私の勤務している新城営林署の造林事業は昭和51年12月18日以来、昨年末までの5カ年間、無災害記録を達成した。

ここに「5カ年の安全衛生活動の足跡と今後の目標」を報告する。

安全活動は日頃の努力の積み重ねであり、それが習慣になった時、始めて安全が保たれることになる。

私達は「安全作業と健康管理は他から押しつけられるものでなく、自ら行動するものである」又「自分の職場からは絶対に災害を出さない」との信念で努力してきた。

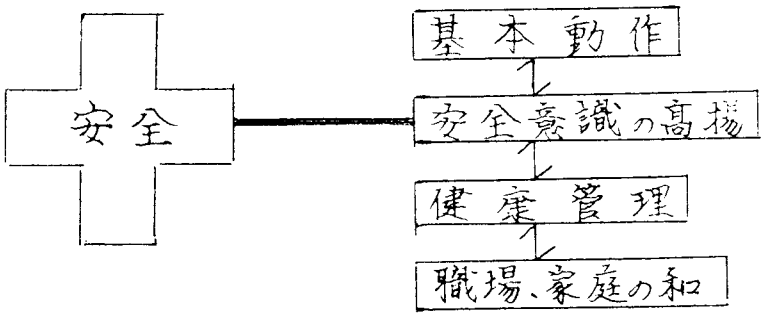
その成果として私達の仲間が考案した「鎌の使用の基礎訓練台」、「刃物の砥ぎ台」、又、健康作りでは「青竹踏み」「腰伸し器」等過去に発表してきている。

私達が5カ年間無災害を達成できたことは、それなりに努力してきた結果の現れと考えている。

この成果を今後安全活動の推進に如何に活用して行くかが重要であると考え、

1. 今日まで無災害を達成できた原因は何であったか。
2. 今後、如何にすれば無災害が継続できるか。

上記の2問について、造林関係基幹作業職員の安全衛生に対する意識をアンケート調査によってとりまとめてみた。



2. 安全について

安全という言葉の中には多種多様な因子が多く含まれている。造林関係について言えば前頁のとおり。

安全意識の高揚の一例では、私も自動車を運転して用務をするが、用務先から帰る時に必ず耳にする言葉に「気をつけて帰って」という言葉である。これも安全運転への呼び掛けで、安全意識を高めるのに役立っている。

私達の職場においても絶えず安全意識の高揚が大切である。

直接的には、作業基準、作業手順を守る、即ち基本動作を身に付け、臨機応変の動作ができることが大切である。

間接的には、体が健康であること。仕事ができる体でなければならない。健康な体が安全作業の要である。

更に職場の和、家庭の和が大切である。

朝の出勤前の口論や気持の「イライラ」を職場に持込んでは本人は1日中不愉快であるし、職場の和も保てない。

このようにして安全意識を高めることが安全につながることである。

職場には多勢の人がおり、それぞれの人の健康状態にも波がある。

私達はこの「安全意識の波」が下降した時に、災害発生の危険は大であると考え、ある一定の高さから下げないことが必要であり、下げないための努力が安全活動である。

3. 取り組みの目標

当署では年度始め、造林・生産を含めた全員の安全推進会を開き、56年度の安全に対する目標を決定し、「決められたことは絶対に守る」を合い言葉に取り組んできた。

造林関係では次の3点を重点目標に決定した。

(1) 300事故通報と安全日誌の充実。

(2) 職場の交流を通じて、互いに基本動作を身につける。

(3) 鉄棒、ウガイ等の励行による健康管理の増進。

4. 設定目標の実行結果

アンケート調査をして、分析すると次のようである。

(1) 300事故通報

造林作業では全般的に転倒(滑り)が多い。又、段戸に多いスズタケに起因する300事故も

ある。

夏期作業での蜂刺されによる300事故も多く、蜂の予防対策も今後必要である。

これらの事故と事故に対するアンケートでの結果では、「ハッとした経験者」は殆んどいる。

この経験は100％全員に職場で検討されており、安全に対する意識の高さである。

（表－1参照）

(2) 安全日誌

従来安全日誌は内容の記入が少なく、目的を十分果していなかったので、56年度推進会決定事項の一つとして、安全日誌の完全記入を目標とした。

班によっては毎日反省等の記事を記入できる班もあったが、また全員の記入に至っていない。今後も引き続き全員が記入する方向での努力が必要である。（図－1参照）

(3) シートベルトの着用

官用車についてはシートベルトの着用は守れても私用車の着用は守られていない。

理由としてシートベルトの着用は苦痛であるという人が40％近くいることから、今後シートベルトの習慣化が目標となる。（図－1参照）

(4) 指差確認

指差確認を確実に行っている人が37％と低く、この調査では指差確認はあまり関係ないという人が38％もあり、更に作業によって異なると答えた人が64％いることから、造林関係の指差確認の方法について検討する必要がある。（図－1参照）

(5) ウガイと鉄棒ブラ下りの実行

従来私傷病の中で風邪での休務者が多く、少しでも風邪での休務者を減らそうと「ウガイ」の実行に取り組んできた。

その結果「ウガイ」の実行で風邪での休務者が年々減ってきている。今後全員が毎朝夕の「ウガイ」の実行をしたい。（図－1参照）

5. おわりに

アンケートの結果からは私達の職場の安全意識は必ずしも高いレベルにあると言えないが、5カ年間無災害を続けてきた原因をまとめると、

(1) 「ハッ」としたことは、その場で話し合い習慣化できた。

(2) 300事故通報の記入、TBMでの安全に対する注意、今までできなかった安全日誌の記入等、日頃からの安全意識の波を高めることに努力してきた。

(3) 安全衛生委員会で話し合われたその月々の安全に対する注意事項が現場におろされ皆の意識を高めた。

以上、日常的な小さな努力の積み重ねが無災害を続けたと考える。

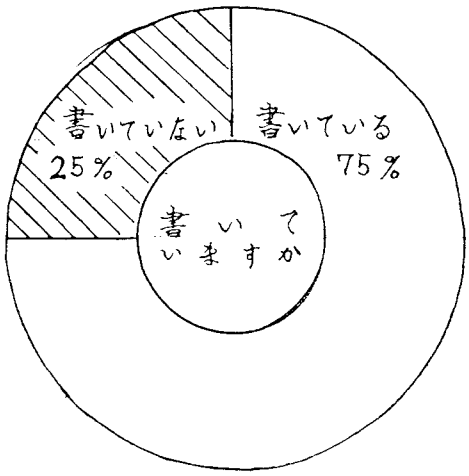
私達はこれからも安全意識の波を絶えず高め、小さな努力を積み重ねて行きたい。

表－1　造林関係300事故通報（昭和52～56.8）

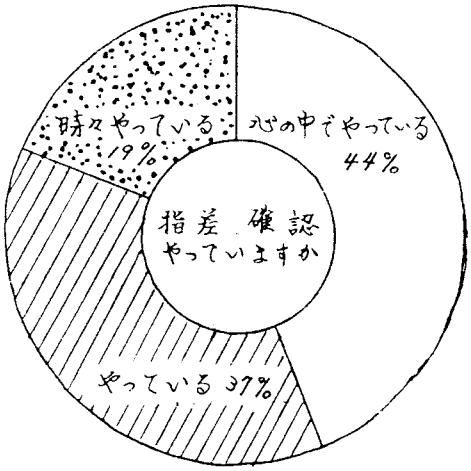
作業内容	転倒	笹木のはね返り	落木	落石	踏ぬき	鎌	鉈	鋸・鍬	刈払機チェンソー	蜂蝮	その他	計
地拵	10	5	3	3	1			1	2 1	5 1	2	34
植付	6	3		2	1			2				14
下刈	10	1				5			2	26 1		45
除伐	3	6				3				22		34
つる切		1				2	1					4
枝打	2		1			2	5	1				11
調査	6	5	1		1		1					14
その他	5	2	2	2			1			4	5	21
計	42	23	7	7	3	12	8	2 2	2 3	57 2	7	177

図－1　アンケート調査

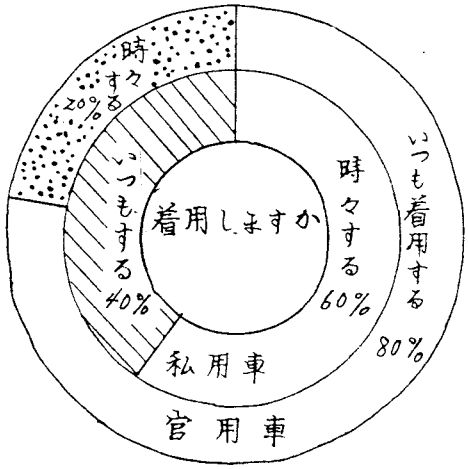
安全日誌



基本動作指差確認

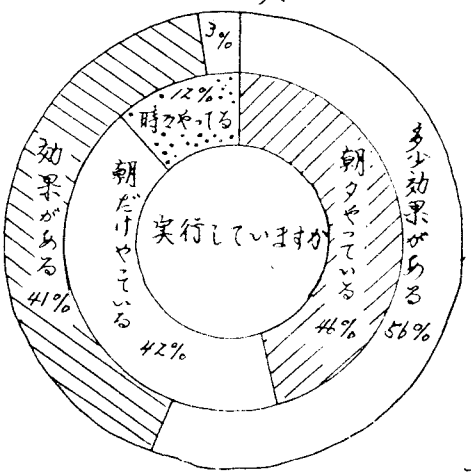
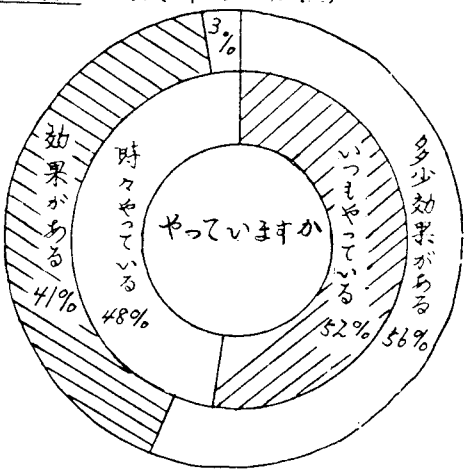


シートベルトの着用



健康管理

ウガイの実行



鉄棒のぶら下り